

## 女性ネットワーク委員会研修参加 報告書

【研修名】令和元年度 つくば市 PTA 連絡協議会 第3回女性ネットワーク委員会

【実施日】令和2年1月26日(日) 9時～11時30分

【場 所】高山中学校 図書室

【参加者】瀬崎、大河

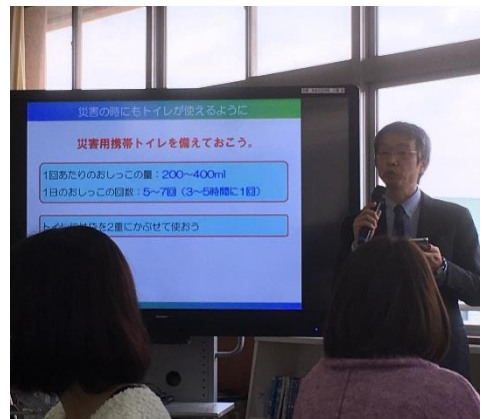
### 【内 容】

今回は、第1、2回委員会後のアンケートにおいて関心が高かった「地域と防災」について、国土交通省 国土技術政策総合研究所の長屋和宏先生に講演をしていただきました。

### 講演内容

#### 1. 防災の話

大きな災害が起こり時間が経過してもその災害を忘れないことが大事。交通事故と大規模地震（震度6弱以上）に遭遇する割合を比較すると、地震のほうが高い（平成30年度一年間での比較）。災害は地震だけではないので、もっと誰にでも起こりうることとして考えることが大事。



#### 2. 学校と地域の連携による防災

**防災マップ**：学校やPTAが作成する交通安全、不審者情報、児童がつくばスタイル授業において作成するもの、行政が作成する危険個所など、各々バラバラのマップとなっている。これらを1つのマップ集約する作業が必要。

**避難訓練**：現在の学校等で行われている避難訓練の中で、実際に地震等が起こった際に使えない機能があることを理解する。例えば、停電で校内放送が使えない可能性もある。また、保護者へ緊急連絡のメールが発信後5時間遅れて届く可能性もある。従ってメールが届かなくても災害が起こった場合には学校に迎えに行く。

**学校防災キャンプの取り組み（吾妻小学校）**：夏休みなどに学校で防災キャンプを実施。防災倉庫の中を出して使ってみるなど。参考までにつくば市の防災倉庫には食料、毛布、ライト、発電機（つくば市のものはガソリンではなく、カセットコンロで発電するタイプで比較的備蓄しやすい）等が入っている。段ボールに入れたままでは、災害時にすぐに使用できない。

#### 3. ワークショップ【防災倉庫を作る】

5, 6人ずつの班に分かれて、各班で防災倉庫を作る場合、何が必要か考えた。最初に各々が、倉庫に必要な物を考えて付箋に記入した。その際に、実際にそれは何に必要か、使う場面を想定した。班内で意見を出し合い、個人で用意するもの、行政が用意するものなど考えて分け、模造紙に付箋を貼り付けてまとめた。

次に、講師から幾つかの問題提議があり、その場合の対処方法を班ごとに考えた。例えば、猫などのペットを避難所に受け入れるときの問題、避難所となる体育館へ大勢を誘導する際に混乱しないようにするにはどうすればよいか、インフルエンザの病人が出た避難所での問題、など。これらについて班の対応案を一部発表した。



#### 4. 災害時のトイレについて

人は1日に5～7回はトイレに行く。しかし、災害により下水処理施設や下水配管などの破損により使用できなくなることがある。その場合の家庭でできる対処方法として、凝固剤を使う方法が勧められる。具体的には、様式トイレに2枚ビニールシートを重ねて敷き、そこで用を足し、凝固剤を投入して固まらせ、上のシートをゴミとする。ただし、凝固剤は吸水ポリマーで、ビニールシートが破れてトイレの配管に入ると詰まりの原因になるので、十分に気を付ける（必ずビニールシートは2枚重ねにする）。4人家族で7日分とすると、凝固剤は150個程度を備蓄できれば良い。

#### 【参加した感想】

講師の長屋先生は、お子さんの小中学校においてPTA会長を経験されたことがあり、その当時の活動なども含めて非常にわかりやすく、楽しい講演をしてくださいました。ワークショップでは、最初に各々が必要なものを書き出す作業をすることで、自分の生活において何が必要なのか深く考えることができました。また、班ごとに話し合いをする中で、自分が気付かなかったことを知ることができました。さらに、講師からの問題提議によって、避難所等で多様な人々が過ごすために何が必要かを考える良い機会となりました。

また、トイレは我慢することができない重要な問題であると強く感じ、早速、家庭において準備したいと思いました。

最後に印象に残ったのは、「災害時に子供たちは我々が守ってあげるだけでなく戦力となる」という講師の言葉です。中学生ともなれば、体力は大人以上の子供もいます。まずは自分の身を守るためにとるべき行動、避難時には自分が協力できることなどを家庭でも良く話し合いたいと思いました。

以上  
作成者：大河美保